

活動事例紹介

村田町地域資源保全隊〔村田町〕

地区概要	取組面積：588ha（田588ha） 資源量：水路 225km 農道 189km ため池 36箇所
令和4年度交付金	農地維持支払交付金 8,820千円 資源向上支払（共同活動）交付金 7,136千円 資源向上支払（施設の長寿命化）交付金 3,197千円
地域の概要	<p>村田町は、宮城県南部に位置し、標高200m前後の丘陵に囲まれた盆地で形成されています。農地面積約1,840haのうち約940haの水田を中心に園芸や畜産を組合せた複合経営が多く、中でも“そらまめ”については県内有数の産地となっています。</p> <p>「店蔵」（みせぐら）と呼ばれる土蔵造りの店舗と豪壮な表門とが並ぶ古い町並みが残っており、平成26年9月に国の重要伝統的建造物群保存地区として選定され、「みちのく宮城の小京都」としても知られています。</p>
取組みの概要	<p>当保全隊は、村田町全域の地区で構成される広域活動組織で、農地維持活動では農用施設周りの除草作業、水路の泥上げ、農道の砂利敷を実施し、資源向上活動（共同）では植栽、農用施設の軽微な補修や施設の機能診断を実施しています。また、資源向上活動（施設の長寿命化）では土水路からコンクリート水路への更新工事を実施しています。</p>
取組みによる効果	<p>基本的な農地維持活動はもちろん、近年では資源向上活動（施設の長寿命化）の活動も構成員による直営作業を実施し、実施前よりも農用施設保全への意識が高まってきていて、活動の効率化など地域全体で検討する機会が増えています。</p> <p>コロナ禍において活動を縮小や休止していた時期もありましたが、治まってきてから以前のように活動をスムーズに再開ができたことは、多面的機能支払交付金による取組を継続してきたからと感じています。</p>
今後の課題	<p>活動参加者の減少や高齢化の影響が大きく、一部の活動ではこれまで1日で終わっていた活動が何日かに分けて作業する必要があるなど、人手不足が深刻化しています。広域化により他の地区と合同で実施するなど対策は講じているものの、遠くない未来にこれまでどおりに活動ができなくなるのではないかと不安があります。</p>
その他	<p>平成19年度の農地・水・環境保全向上対策から活動を始め、その後会議を重ねて令和3年度に5つの活動組織を統合した広域活動組織設立に至りました。会議等が開催できない期間もありましたが、近隣地域からの活動協力や知識の共有など広域化の効果がみられるようになりました。</p>



草刈作業



掘上作業



農道砂利敷作業



施設の長寿命化のための活動



植栽活動



会議風景